

令和4年度新城設楽地域産業労働会議における主な発言要旨

日時 令和4年8月5日(金)

午後2時から午後4時まで

場所 新城設楽振興事務所 第1会議室

(誰もが安心して生き生きと活躍できる環境づくり)

- ・新聞報道の各国の男女平等「ジェンダーギャップ」調査対象では、146か国中、日本は116位、G7の先進7か国では最下位となっている。
- ・女性の管理職割合は13%に留まっているとの調査結果もある。日本固有の問題であると認識している。男性が意識を変える必要があると思う。
- ・男性も育児休業を取れるようになってきている。男性労働者の8割が希望しているが、実際には1割に留まっているのが現状である。
- ・行事があるときは参加者に食品を持ち寄っていただき、生活困窮者へ東三河フードバンクを通して寄贈している。コロナの2波、3波の際は下宿生活をしている学生に対する支援の現状を見た。働く者が自治体と連携して、意見をしっかりと発言していくことが大事だと感じた。
- ・2年前労働組合の本部の女性役員は0人。今年は2人になろうとしている。育児短時間労働の規定の見直しをしている。これまでは最長3年までであったため最初で3年取った人はもう取れなかったが、会社と交渉して、長期間働ける規定となった。
- ・定年60歳でそれ以降は雇用延長制度がある。課題は継続してからの働くモチベーションだ。60歳までは人事評価制度があり昇給もあるが、継続雇用になるとなくなる。人事評価し、昇給も賞与もある制度とするため会社と交渉している。
- ・テレワークを活用したWeb会議はどこでも出席できる反面、時間外で会議に出ていないか、労働時間として管理ができていないか等の勤務管理は課題である。
- ・コロナ禍でテレワークの活用によりコミュニケーションの場が減少し、意志疎通や気晴らしもできずハラスメント関係の相談が増えている。会社と情報共有し対策を考えている。
- ・新城及び作手地区、設楽町はトマトの主産地であり、これまで親元での就農、定年後地元で農業を始める方など10年で100名近い方が就農された。生活文化の違いから地域となじめない例もある。

(観光の現状)

- ・「道の駅したら」が昨年開業したことにより道の駅に訪れる人が増加し、経済的にも活力が少しずつ増えてきている。観光協会がその中に入り、情報発信を更に強化できたと感じている。
- ・東栄町では6月に「ホテルのさんぽ道」を3年ぶりに開催した。ホテルを地域資源と考えて、地域の経済循環に繋げるイベントに方向を変えた。

(観光・交流による地域の魅力の向上・発信)

- ・ジブリパークには人が来るが、そこから他の市町村に立ち寄りやすいアイテム等がほしい。設楽町に来ないともらえないような物、例に出すと「マンホールカード」がある。これは、人間の心理で集める事ができるので、ジブリパークと連携できる物があれば必然的に人が集まる。
- ・「もののけ姫」の風の音や、水の音は奥三河の音そのものだ。聖地巡礼として使えないのかと思う。
- ・新東名を利用すれば新城までは、ジブリパークから1時間ちょっとである。「もつくる新城」を拠点にして、この地域を巡っていただくような形ができれば良い。
- ・NHKの大河ドラマを契機にして、更に地域資源を活用した活性化が図られるような準備を進めているところである。
- ・新城ラリーが定着したおかげで、世界ラリー選手権が11月に予定されている。
- ・アジア競技大会では、新城市が自転車競技の会場となる。
- ・新城トレイルレース、奥三河パワートレイルなどトレイルランの大会が開催されている。新城市独自のダモンデトレイルは、家族や仲間と初めてトレイルランニングを体験することで、気軽に参加できる大会として定着してきている。
- ・コロナ禍であるが、逆にこの機会をフィッシングツーリズム推進の好機と捉えている。新城のスポーツツーリズムの中でも大きな観光資源だと考えている。
- ・「つぐ高原グリーンパーク」ではキャンプを中心に賑わっている。モンベル等関係にある企業が、「道の駅したら」の対面の空き地を利活用できないか考える段階にきている。
- ・芝桜まつりの来場者は11万人だった。「芝桜まつり」と看板を付けることにより、通常営業だった昨年度の3倍近い集客となった。コロナ禍を恐れるばかりでなく、対策をしっかりとしながらイベントを開催するのも地域にとっては必要な事だと感じる。
- ・「奥三河ぐるめ旅2022」と「おくみかわチキンレース」では、新城設楽管内の参加店舗に巡っていただき食事や土産物を購入いただくことにしている。
- ・「大千瀬てらす」を夏の間だけ開設している。東栄町浄化センター周辺の公園を利用し、デイキャンプから宿泊キャンプもできる。
- ・「津具はたるまつり」を開催した。規模は大きくないが例年以上のお客が来られ、町外からのお客も多く来られた。課題は、「場所が分からない」の他、駐車場が満車になり遠くの場所に車を止める事になったという苦情もあった。来年も続けて開催するので、改善して多くの人に来ていただきたい。

(地域の製品のブランド力の向上)

- ・ペットボトルに入った新城茶のリニューアル化を愛知東農協とタイアップして進めている。地元高校の生徒に試飲やデザイン等の協力をいただき現在準備を進めている。来年の2月頃にはリニューアルした新城茶を提供できると思う。
- ・毎月第四日曜日に飲食物や日用品などが販売される軽トラ市を行っている。8月には、中京テレビの「24時間テレビ」が取材に来るので大きな話題になるかと思う。

- ・設楽町では、関谷醸造がブランド力を持ち全国的にも有名である。それに次ぐ企業がなかなか出てこないのが現状である。東三河や県内の範囲でもよいので、ブランド力のある企業を町等と協力しながら見つけていきたい。
- ・豊根村特産品開発の講習会を実施して、新たな特産品の開発に力を入れる。商工業者の特産品やPRする商品のプロモーション動画を作成して、魅力を発信して行く。